

五歳児の記録⑬



二学期

磯部景子

十月十二日 月曜日 晴

オリンピックあそび

—遊んでいるうちに開会式が行なわれることになる—

庭ではたいこ橋のところが高とびをしていて、オリンピック遊び

がはじまる。

保育室では子どもたちがメダルをつくりはじめる。

先生も加わってメダルをつくる。

入場券もつくる。

メダルや入場券をつくっている間、他の場所で、リレーや重量あ

げなどの競技が展開する。

メダルや入場券をつくりながらオリンピックのことをはなしているうちに開会式の話になる。先生は開会式を行なう準備をしはじめる。

先生が開会式につかう旗をつくることを提案する。

メダルができあがり、旗がいくつかできあがるころ、先生はプレ

ーヤーを庭に運ぶ。

先生は子どもたちをうながして庭に出る。

子どもたちが庭に並んで開会式がはじまる。

砂場で遊んでいた子どもたちは開会式をしている子どもたちが国歌をうたっているのをきいて集まってきて、オリンピック遊びがクラス全員の活動となる。

九時十分

庭

男児六名が、二人ずつ組んで、なわとびのなわで足をゆわえて、

二人三脚をしている。

たいこ橋のところ、たいこ橋になわとびのなわをゆわえて、
㉑、㉒、㉓が高とびをしている。

保育室

男児五名が箱積木で飛行機の格納庫をつくっている。

女児㉔、㉕、㉖が絵をかいている。

九時二十七分

①が先生のところに来る。

①「せんせい、きのう、テレビでみたけどね、きのう、重量あげ
で、ソ連かったよ」

先生「そうね。うーんとあげて勝ったわね。よろよろとしたわね」

①は庭に行く。

㉗たちのところに行つて、審判員になって遊びに加わる。

皆でしばらく高とびしていたが、㉘は皆がとびおわらないうちに
なわを高くあげる。

㉙がおこる。

①「おこっているから、ひとつ、ばつがつきましたよ」と㉚にい
う。

遊んでいるうちに、こんどは㉓と㉔がいいあらそう。

皆がごたごたしている。

①が来て、たいこ橋の上に昇つて上からみおろしている。

①「わたし、みているのよ。やねうらで。㉓ちゃんのおばちゃん
ふしぎにやさしすぎるからわからないわ。あなたがそんなにこわ
いの？」と㉔にいう。

①「オリンピックの入場券つくれば？」と㉕にいう。

㉖は①に入場券のことをいわれて、ひとりで保育室に走って
いく。

保育室では子どもたちが何人かメタルをつくっている。

先生もメタルをつくるのに加わる。

㉗はメタルをつくっている子どもたちのところに行き、メタルを
つくりはじめる。

「せんせい、これ、金メタル」といって、牛乳のふたをみせ
る。

先生「あつ、牛乳のふたにリボンをつけるといいわ。黄色ぬって。

一等賞になった人に金メタルあげるの」

「リレーは？」

先生「リレーもいいのよ」

「金紙でやったら、どうかしら」

先生「そうね」

「銅はどうですか？　せんせい」

先生「銅は茶色だわね」とかながえる。

先生も子どもたちといっしょになって、メタルをつくる。

先生「こういうふうにするのよ。ここにのりつけて。はって。金紙
いただいてくるわね」といって材料室に金紙をとりに行く。

九時四十分

格納庫をつくっていた男児たちはさらに、飛行機と大砲をつくつて戦争ごっこをしている。

先生が保育室に帰ってくる。

先生「一等賞の人は金メダルね」といって、先生は子どもたちとは
なしながらメダルをつくる。

先生「せんせい、重量あげにでも入れていただこうかしら」とい
う。

B がメダルをつくっているところに来る。

B 「なにしているの」

K 「オリンピックよ」

K は自分の首にリボンをかけて、ちょうどよい長さだけリボン
きりとる。

○ が保育室に入ってくる。

K は○をみて、

K 「これ、リボン、むすんでおねがいね。わたしたち、入場券つ
くらなきゃ」とK は○にいう。

○と◎ 「わたし、みる人にならせてね」

K 「あっ、そうだ。○ちゃん売る人になって」

(入場券を売る人の意)

◎ 「いや」といって、リボンでかぎりをつくっている。

◎ 「先生も入りたいっていえばリボンメダルつくってあげる」と
先生にいう。

たいこ橋のところで遊んでいた◎、④、実習生が①のピッピとい
う号令にしたがって、歩調を整えて保育室にメダルをもらいに来
る。

砂場では男児七名、女児二名が遊んでいる。

①がひとりで自動車にのっている。

④が実習生といっしょに①のところにくる。

④は①といっしょに車にのって、実習生におしてもらう。

先生はメダルをつくりながら、

先生「オリンピックはどこではじまるの？」という。

K 「たいこ橋です」

◎ 「表彰状つくったら」と提案する。

先生「そうね、いいわね」

子どもA 「一等、二等の台をつくらなくちゃ。箱で」

子ども◎ 「つぶれちゃうわよ。いすでやったら」

子どもC 「そうだなあ、いすがいいな」

先生と子どもたちはオリンピックのことを話題にしてメタルをつくっている。

① たちは石段のところに立って、しばらく保育室の中のようにすみている。

① 「まだ、メタル、できない？」とたずねる。

② 「まだよ。練習していらっしやいよ」といって、先生といっしょにメタルにリボンをつけている。

先生 「金メタルのリボンは水色にする？黄色にする？」

先生 「せんせい、メタル嬢になろうかな。しってる？きれいな着物きて、メタルあげるひと」

(先生はオリンピックに関することがらを積極的に話題にしている。)

③ 「わたし、メタルあげる人になる」

④ は自分でつくった大きいリボンのメタルを先生につけてもらう。

子どもD 「開会式がないや、このオリンピック」

子どもたちのあいだで開会式のことを話題になる。

⑤ たちはいったんたいこ橋にもどるが、まぢきれないで、また、保育室にメタルをとりに来る。

メタルがもらえないので、また、たいこ橋のところに行く。

先生は庭に出る。砂場に行き砂場のようすをみる。

先生 「オリンピック、どこでやってるの？」と聞いて、庭をみわたす。

たいこ橋のところに子どもたちがいるのをみて、

先生 「あすこらしいわね」といってたいこ橋の方へ歩いていく。

A は砂場で他の子どもたちが遊んでいるのをみていたが、先生のことについて、たいこ橋のところに行く。

たいこ橋のところでは、子どもたちがぼつぼつと競技に加わる。

① は子どもたちが入ってくることに他の子どもにも紹介する。

① 「M選手が入ったんだって。T選手も」

先生は庭で子どもたちがしている遊びを競技種目として、とりあげる。

先生 「体操もあるわね。マラソン、お山、二周？二周じゃ少ない

わね。マラソン三周。先生も入りますよ」という。

マラソンをしていた子どもたちは相当つかれたらしいようすをして走りつづけている。

先生 「マラソンはあまりはやく走るとつかれてしまうのよ」

T 「Kちゃんがアメリカで、ぼく、日本」といって走りつづける。

B は走るのを途中でやめて、三歳児の子どもにたのまれて、自動車を押している。

先生「㊦ちゃん、どうしたのでしょうかね。まだメタルできてこないわね」といって、二、三人の子どもといっしょに保育室によろすをみに行く。

①「表彰台は？」

先生「そうね。じゃ、お部屋の中につくっておきましょうね」

先生が保育室にいくと箱積木で表彰台ができています。

先生は別々の紙に1、2、3と大きく書いてきりぬく。子どもたちが表彰台にはる。

表彰台がいちだんと表彰台らしくなる。

マラソンをしていた、H、K、Tたちが、保育室に入ってくる。

表彰台をみつめて、表彰台に上がる。

㊦「パンパカ、パーンをやってからよ」という。

㊧「パンパカ、パーン。はい金メタル」といって、Hたちにメタルをかけてあげる。

みんなにこにこ笑っている。

子どもたちが次第にオリンピック遊びに夢中になる。

先生は子どもたちのようすを見て、行進曲のレコードをかけて、入場式の準備にとりかかる。

表彰台のところがぎわっている。

㊦「金メタルもらってご感想は？」

K「ごかんそうって？」

T「どんな気持ですかってということ」

㊧「ではTちゃんは？」

T「ぼく、わかんない」といってTはわらう。

先生「あつ、あと旗、旗、入場式をするのなら、旗がいるでしょう？」

先生は旗をつくりはじめる。

子どもA「ぼく、日本」

子どもB「ぼく、アメリカ」

子どもC「ぼく、カナダ」といって、先生のまわりにいた子どもたちが旗をつくりはじめる。先生は旗を棒につけていく。

先生「㊦ちゃん、セロテープをとって下さいな。切ってね」

先生は㊦からセロテープを次々とうけとりながら旗を棒につける。

表彰台のすぐ近くで、くみ板でパーペルをつくって重量あげがはじまっている。審判員がいて、先生に画用紙をもらって得点をつけている。

砂場では男児四名、女児四名が遊んでいる。

表彰台のところで、また表彰式がはじまろうとする。

先生「ねえ、ちょっと、開会式をやったの？」という。

十時三十七分

先生は保育室からプレーヤーを運んで庭に出ながら、子どもたちをさそう。

先生「さあ、レコードがなりますよ。開会式がはじまりますよ」

子どもたちはみんな庭にでる。

H「ぼく聖火かかげる人、坂井さん、聖火リレーむかえてあげるの」といってトーチを持って走っている。

(聖火のトーチは運動会のときにつかったもの)

メタルを持って、

「パ、パ、パ、パ、パ、パ、パ、パ、パ、パ」といっている子どももいる。

先生「メタルはまだよ。競争してからよ。みんな、ここに、おいとくのよ」という。

何人かの子どもが旗を持って庭に出る。

先生は旗を持っている子どもを先頭にして、そのうしろに子どもたちを並ばせようとする。

これから何がはじまるのか、ようすがよくわからないでまわりの子どもをみながら、立っている子どももいる。

先生「オリンピックの開会式がはじまるから、旗のうしろに並ぶのよ」という。

旗を持っている子どもを先頭にして、何人かずつ並ぶ。長い列もあれば、短い列もある。

◎は旗を持ってひとりではつんと立っている。

◎のうしろには、だれも並んでいない。

先生は◎がひとりで立っているのをみる。

先生「そう、選手がひとりで参加した国もあつたわね」という。

だれかが国歌をうたいます。だんだんとみんながうたう。

ひとり子どもが石段の一ばん高いところに来て、指揮をはじめ

る。
砂場で遊んでいた子どもたちは他の子どもたちが国歌をうたっているのをきいて砂遊びをやめて、みんなのところに来る。

国歌をうたいおわる。

H「聖火台はどこ？」

先生「聖火台はたいこばしのところよ」

H「ねえ、きみ、さかいよしあきくんは聖火わたす人になつてくれない？」

A「うん」

HとAはたいこ橋の方へ走っていく。

Hはすぐにひきかえしてくる。

H「いまの、れんしゅう。選手が入ってきて、みんなで歌をうたつて、それから聖火だもの」

子どもたちはがやがやとはなしている。

N「日本は何番にくるか？」

I 「九十四番目」

Ⓚ 「ちょっと待って。みんな四列にならなきゃ」といって、Ⓚは子どもたちを四列に並べはじめ。

Ⓝ がみんなの列に入らないでみている。

Ⓞ 「せんせい、わたし、ほら、写真とってるの」

Ⓟ 「もとどおり」

H 「やりなおし」

先生 「やりなおし？ Ⓡちゃんも入れていただいたら」

先生 「いいですか？」といって先生はレコードをかける。

子どもたちは立って、わいわいとはなしている。

① 「わたしたち、見物人」といって、①、D、Sは三人で石段の上からみんなをみている。

① 「望遠鏡でみているの」といって両手を筒状にして目にあててみている。

先生はレコードをとめる。

先生 「さあいいですか。したくできましたか？」といっでもう一度レコードをかける。

先生 「Ⓢちゃんからいきなさい」と、子どもたちに行進するようにいう。

子どもたちはⓈを先頭にして、曲に合わせて歩きはじめる。

各グループとも、旗を持った子どもが先頭になって歩く。

子どもたちは庭をぐるっと一周して帰ってくる。

先生はレコードをとめる。

Ⓞ は行進に加わらないで写真をうつすまねをしている。

先生 「Cちゃん『はじめます』って、いったら」とCにいう。

Cは先生をみていて何もいわない。

先生は子どもたちの前にたつて、子どもたちの顔をみながら、

先生 「これから、オリンピックをはじめます。みんな、いっしょけんめい、やって下さい」といっておじぎをする。

Hが聖火を持ってたいこ橋のところを走っていく。

Hは聖火を持って、たいこ橋のぼつて火をかかげ、おりて帰ってくる。

「火がおちたよ」

「おちても、もえてるって、おかしいよ」

Ⓚ 「せんせい、きみがよをうたわないの」と先生にいう。

先生 「きみがよが入りますよ」と皆にいう。

皆でもう一度国歌をうたう。

先生 「今日の開会式はおわります」といって、レコードをかける。

「ぼく、リレーだよ」などいいながら、子どもたちはばらばらになる。

半数くらいの子どもたちはたいこ橋のところに行く。

Ⓚ 「せんせい、見物席つくれば。あそこ、いいじゃない？ Sちゃんのところ」

先生はわらづつを持ってきて、

先生「旗はここにたてておきましょう」という。

子どもたちは旗をたてにくる。

先生「リレーの選手はリレー。重量あげの選手は重量あげって、わか

かれるのね」

Ⓚ「こんどは、みんな、ばらばらになって。もう、とめていいわ

よ。レコード」という。

先生は旗のさしてあるわらづつをリボンでかざる。

子どもたちはわいわいといっている。

E「アメリカは八十九番目だよ」

Ⓚはプレーヤーのところに行き、

Ⓚ「リレーをはじめて下さいな」と号令をかける。

先生は①と②の姿がみえないので、子ども们的家にさがしに行く。

庭でリレーがはじまる。クラス全員の子どもがリレーに参加す

る。

D、S、M、①、Ⓚ、②、③は走らないで応援をする。

Ⓚは望遠鏡でみるかっこうをしている。

はじめは花壇のまわりをまわって出発点にもどってくるリレーだったが、山をまわって庭を一周しはじめる。

応援していたDが、

D「走りたくなったな」という。

子どもたちの中には、同じ方向に向かって走らないで、反対の方向に走るものもある。

先生は走ったら、みんなのうしろにつくこと、いつも同じ方向に走ることを子どもたちにはなす。

先生「しっかり、しっかり」といって、ひとりずつ子どもを応援する。

「スイスのかち、日本のまけ」

といって子どもたちは一団になって保育室に表彰式をしに行く。

表彰式をおわって、

ぼつぼつと子どもたちが保育室からでてくる。

(次は体操がはじまる)

Ⓚ「こんど、体操。選手のひと、あつまって。どびあがりまわり」さか上がり手ばなしがあるのよ」

①が入場券をみている。

鉄棒のところに一部の子どもたちがくる。

たいこ橋のところに、子どもたちが多勢あつまっている。たいこ

橋にぶらさがっている子どももある。

「だんだんむずかしくなるのよ」

「はじめは、おるだけよ」といって、子どもたちはたいこ橋のところではなしている。

先生もたいこ橋のところに来る。

「せんせい、ストップウォッチではかれば？」

「きょうそうじゃないから、できればいいのよ」

先生は子どもたちがたいこ橋をわたったり、ぶらさがったりしているようすをみながら、実況放送をする。

先生「T選手、わたりました。次はH選手です」

Tがたいこ橋のいちばん高いところにぶらさがる。

Eが出てきて、Tの体をゆらす。

先生「ゆらしちゃ、だめよ。E選手」と注意する。

先生「はい、N選手、でてきました」

「よわむし選手」

先生「あら、そんなこといったら、かわいそうよ。N選手、いっし

ょうけんめいやりました」

Aが出てくる。

「Aちゃん、くろいから、黒人選手」と子どもがいう。

先生「こんどは、女子の⑩選手です。いっしょうけんめいがんばっています」

⑩は保育室から旗を持ってきて、子どもたちを順番にならべている。

先生はぶらさがったまま、おりられなくなった子どもを助けながら、

先生「手のとどくところからした方がいわよ」という。

皆がオリンピックに夢中になっているうちに、おべんどうの時間になる。

先生「おべんどうがおわったら、また、ここからやりましょうね」という。

「やーまのくみ、おかたづけ」と子どもたちはいいながら、砂場、子どもの家、保育室へと走って行って片づける。

「また、やろうね」

先生「そう、またやりましょうね」という。

十二日は朝から保育室や庭で、重量あげ、メタルづくり、入場券づくり、表彰式、高とび、マラソン、テレビでみたオリンピックのはしる等のオリンピックに関する活動がみられた。ある子どもが「開会式がない」といったことがきっかけになって、先生は開会式ができるように、旗をつくったり、プレーヤーを庭の方へ運び出したりする。

先生と子どもが考えを出しあって開会式が行なわれる。クラスの大部分の子どもが開会式に参加して国歌をうたいはじめる。砂場で遊んでいた子どもが国歌をきいて、砂遊びをやめて開会式に参列する。開会式をみていた子どもの中には開会式をみているうちにカメランになったり、見物人になることを思いつくものが出てくる。クラス全員の子どもが、それぞれの立場で開会式に参加し、開会式がクラス全員の活動となった。

先生はオリンピックの活動に関して、どのような抱負を持っていたかということ、十二日以前に、オリンピックの活動に直接関係のあったことがらを取り出すと次のようなものがある。

磯部「先生はオリンピックの活動についてどのような予想をしていらっしやいましたか」

堀合「計画としては大きくとりあげるつもりはなかった。幼児の間から自然と出てきたもので、幼児から出てきた遊びをとりあげて発展させた型。大きくとりあげるには先生の知識もたりないし、幼児も実際にオリンピックを見に行ける人ばかりではない。また、日本で行なわれていて、あるところまで正確に再現しないと幼児の非難をうける。人生のひとつの大きい歴史として幼児時代に残しておきたい」

・九月十四日、先生が運動会の聖火リレーに使う聖火のトーチをつくる。九名の子どもたちが先生を囲んで聖火のトーチのことが話題になっている(66巻12号59頁)

・聖火リレーがさかんに行なわれる。(66巻12号・60頁、62頁、67巻1号58頁、62頁、67巻3号67頁、68頁)

・運動会のとぎいろいろな国の万国旗をつくって(67巻1号65頁、67頁、67巻2号59頁、60頁)いろいろな国の名前を知っている(67巻2号68頁)

万国旗をかけた本が保育室においてある。

・十月九日、先生が新聞のオリンピック版のメダル獲得表を持ってきて子どもたちの机の上においておく。子どもたちが四、五名オリンピック版を囲んではなしをする。先生も子どもたちのなしに加わる。そのあと壁にメダル獲得表をはっておく。

・十月十日、先生はオリンピックの予定表を持って「どこにはろうかしら、あしたからのだけれど」とひとりごとをいいながら、はるところをさがし、結局、メダル獲得表のとなりにはる。帰るあつまりの時に、今日からオリンピックが開かれるというはなしをする。

実習日

実習生が保育時間中に部分的に参加して、実習する実習日と、実習生が全責任を持って参加する実習日がある。十月十三日、十四日は後者の実習日である。

十月十三日 火曜日 くもり

実習日

まず午前中の先生、実習生、子どもものうごきを概観する。先生は、朝、ちょっと保育室に立ちよるが、その後、先生の姿がみえない。
保育室の窓も庭につづくドアも閉まったままである。

子どもたちがぼつ、ぼつ、登園しはじめる。保育室に先生がいないので、子どもたちは職員室に行ってみる。職員室にも先生の姿がみえないので、子どもたちは保育室に帰ってくる。

子どもたちはクレパスや画帳を自分のひき出しから持ってきて、絵をかきはじめる。本を読んだり、保育ブロックで遊びはじめる子どももいる。

庭につづく場所のドアが閉まっていて、庭に出る子どもはいない。

しばらくして、○のクラスのＴ先生が来て、ドアをあけたり、窓をあけたりする。子どもたちにくつ箱を庭に出すようにいう。

子どもたちは、だんだん庭に出ていく。

先生が保育室に入ってくる。間もなく保育室を出る。

Ⅰ実習生とⅡ実習生がふたりで保育室に入ってくる。

Ⅰ実習生は保育室で製作を担当し、Ⅱ実習生は庭に出て子どもたちと遊ぶ。

先生は花をもって保育室に入ってくる。先生は花を生ける、それから庭に出る。

庭では砂あそび、マラソンなどがはじまるが長つづきしないでじきにやめる。保育室に入ってきて製作をはじめる子どももいる。

子どもたちがつくりたいものを先生のところに行ってくると、先生は子どもたちにⅠ先生（実習生）のどこへ行ってⅠ先生といっしょにつくるようにという。

先生はⅠ実習生に子どもたちがつくりたいといってきた事柄をつたえておく。

保育室ではⅠ実習生がペープサートをつくる計画を持っている。

Ⅰ実習生は子どもたちとはなしながら、箸や紙などの材料を準備している。

Ⅰ実習生はまわりに集まってきた子どもたちに、

「ペープサートをつくりましょう。絵は何をかいてもいいの」という。しかし子どもたちはペープサートには興味を示さない。

子どもたちは材料棚から、糸まきや輪ゴムを出してきたり、空箱を持つてくる。

Ⅰ実習生の準備した箸や、紙や、自分たちが出してきた材料をつかって、モーターボートや、ころがる車や、かめや、落下さんをつくる。

また先日つくった、カラスコップ、をなくして家から練りはみがきの空箱を持つて来て、カラスコップ、をつくっている子どももいる。

このようにして、Ⅰ実習生のまわりで何人かの子どもがいろいろなものをつくりはじめる。どの子どもも熱心につくっている。

Ⅰ実習生は子どもの要求に応じて材料をさがしたり、子どもがつくるのを手つだったりする。

先生が庭をみまわっていると、子どもたちは先生をみつめて、先生について歩く。先生がたいこ橋、つり輪、ぶらんこ、鉄棒と移動するにつれて、子どもたちも移動する。

Iが自分でつくったつり竿を持って先生のところに来る。先生は魚のかっこうをして、泳いでにげる。

先生は庭にガラスの破片をみつめて、ガラスを捨てに行く。先生がいなくなったあとも魚つりの遊びが少しつづく。

つり竿をつくりたい子どもが何人か出てくる。

先生は木綿糸を持って来て、竿をつくりたい子どもに糸をあたえる。

先生はその後、保育室から庭につづく石段のところにあつて、子どもたちといっしょに、どんぐりに糸をとおす。

先生は実習生や子どもたちを観察する。

先生は子どもたちがはなしかけたり、いつてきたことに対して、いつものように応じているが、先生から積極的になされたことがらはない。

おひる近くなって、ジャングルジムの所で子どもたちはリスや、犬や、熊になって空想あそびをする。

朝、マラソンがみられたが、その後、オリンピック遊びらしいものはみられない。

I実習生はベープサートをつくるという計画を持っていたが、子どもたちがいっていることに耳をかたむけ、子どもたちがいっていることを理解しようとし、子どもたちの要求をうけ入れていた。I実習生はおちついて製作の準備をすすめていて、I実習生のまわりにいる子どもたちはおちついて、自分たちがつくりたいと思っていたものをつくることができた。しかし、子どもたちがいつてきたことがらが何であるかわからない場合もあるし、子どもが手つだつてといった時、子どもが必要としていることが何であるか、子ども自身でできることがどこで、手助けを必要としていることが何であるかをみきわめることはできないで、いっしょうけんめい手つだつて、結局I実習生がつくつて、子どもがI実習生がつくるのをみている場面もあった。また、いっしょうけんめいつくっている時には子どもがいってきたことをきく余裕はなかった。

先生と子どものむすびつきはつよい。実習日でも朝、子どもたちがしがしている人は実習生ではなくて先生であり、何かつくりたいものがあつた時や、ほしいものがあつた時は、子どもたちはまず、先生のところに行く。何か、つくりあげてうれしい時も、子どもたちは、まず先生のところにとんでいく。

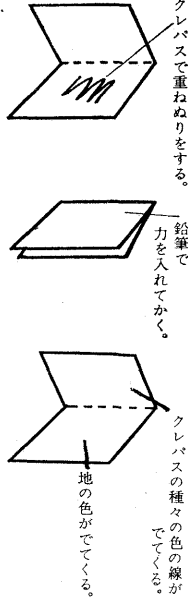
保育室

八時四十分

うつし絵をかく 男児五名 女児二名

子どもたちがぼつぼつと登園する。保育室に先生の姿がみえないので職員室に行く。職員室にも先生の姿がみえないので、子どもたちは保育室に帰ってくる。それぞれの子どもが自分のひき出しからクレパスや画帳を出してくる。

画用紙を半分に折る。中側の半分の部分に種々の色をつかってクレパスで模様をかく。何色もかき重ねてぬっている子どももいる。クレパスでかきおわると、折り目のとおり紙を折る。上の部分の紙に鉛筆で力を入れていろいろなものをかく。鉛筆でかいた紙の裏の面にクレパスの色がうつる。クレパスでかいた面は重ねてぬった色の一部分がとれて、最初にぬった地の色が出てくる。



子どもたちは、どんな色のどんな絵ができるか、紙をめくってみてはかいていく。

本を読んでいる 女児三名

保育ブロックで遊んでいる 男児三名

I が登園する。

「今日は十月の何日だろう」といって黒板の日付のかいてあるところをみる。

八時五十五分

他の組のT先生が保育室に入ってくる。

T先生は窓をあけたり庭につづくところのドアをあけたりして、子どもたちにくつ箱を外に出すようにいって保育室を去る。

①は本を読むのをやめて庭に出る。

絵をかいていた男児は絵をかくのをやめて庭に出る。

②が③といっしょに登園し、手をつないで保育室に入ってくる。

④は片手に練りはみがきの空箱を持っている。

⑤は保育室内をみわたし、それからドアのところに行く。

⑥は庭にいる子どもたちをみわたす。

⑦は⑧をみつける。

⑨「⑩どん」という。

⑪は遠くに⑫がいるのをみつける

⑬「⑭ちゃん、おはよう」と大きい声で⑮に声をかける。

堀合先生が保育室に入ってくる。間もなく保育室を出る。

I実習生とN実習生が保育室に入ってくる。

㊦と㊧が、

「㊦ちゃん、お外に、行きましようよ」と㊦をきそって三人で庭にかけて行く。

㊨はひとあたり庭にいる子どもたちをみわたしてから、

㊩「そうだ、㊩、こういうの、つくるんだった」といって、手に持っていた空箱をみる。

となりの組の㊪が来て、

「㊩ちゃん、遊ぼう」というが、㊩は、

㊫「あっ、そうだ、つくるのだった」といって保育室に入ってくる。

となりの組の㊬は

「㊩ちゃん、たいこ橋のところまで遊んでいるからね」といってたいこ橋へかけて行く。

㊭はとなりの組の㊮をふり返って、大きい声で、

㊯「㊮ちゃんも、いっしょに遊んでいてね」という。

㊰は自分のひき出しからはさみを出してきて、いすにすわって、練りはみがきの空箱をきりはじめる。

九時五分

㊱は練りはみがきの箱を持ったまま、㊲とはなしこんでいる。

九時十分

保育ブロックのところで男児がおおぜい遊んでいる。

㊳は堀合先生をさがしている。

㊴はどんぐりを三つ持って庭に出る。㊵のところに行き、どんぐりをわたしながら、

「㊶ちゃんにあげてね」といって保育室に帰ってくる。

保育室ではI実習生が材料棚にちかい子ども机の上でベープサートの材料を準備しながらTとはなししている。

堀合先生は花を持って保育室に入ってくる。

OとYが堀合先生に、

「せんせい、何かつくる」という。

堀合先生は、

「I先生といっしょにつくるように」とOとYにはなす。

㊷が堀合先生をみつめて、練りはみがきの箱をみせながら、

㊸「つくりたいの」という。

堀合先生はI実習生にOとYがなにかつくりたがっていること、㊹がカラスコープをつくりたがっていることなどはなす。

I実習生はベープサートにつかうための画用紙を切っている。

I実習生はまわりに集まって来たT、Y、Oに

I 実習生「ペープサートをつくりましょう。絵は何をかいてもいいのよ」とはなす。

T「おもしろくないよ。つくるのはおもしろくないけど、おもしろいのはおもしろいよな。まあ、つくったけどおもしろくなかったよ」という。

I 実習生は材料を準備しながらTのことをきいている。

庭

九時十五分

砂場でN、K、S、I、E五名が遊んでいる。

穴を掘って穴の上に二本丸太をさしわたす。バケツに砂と水を入れて、こねてセメントにする。丸太の上にセメントをぬる。

穴につづけて山をつくる。山の上にもセメントをぬる。

穴を掘ってバケツをうずめる。バケツをうずめたあと砂をもり上げて山にする。

大きい穴を掘って丸太を五本さしわたして天井にする。丸太の上
にセメントをぬる。穴は見えなくなる。管をさしこんで、穴に水を
ためる。

九時三十分

はじめは五人で協力して遊んでいたが、だんだん、それぞれ別
ことをはじめめる。はじめからのつづきをしているのはEのみにな
る。

NとKとSは砂遊びをやめて保育室に入る。

保育室

I 実習生のまわりでT、Y、Oの三名がきびがらと空箱でモーター
ボートをつくっている。

Aがひとりで箱積木で格納庫をつくっている。

⑧、⑩、⑪がいっしょに遊んでいる。

NとKはI実習生のところに行く。

SはAのところに行く。

N「せんせい、糸まきのから、ない？」とI実習生にいう。

I 実習生はNのいっていることをきいて、首をかしげて材料棚を
さがしはじめる。

(I 実習生は糸まきのからって何かしらと思う)

N「まあはあったけど」といってNも材料棚をさがす。

Nは糸まきを見つけて、動く車をつくりはじめる。

KはI実習生のところにいるTをみつける。

KがTをさそう。TはKに応じて、

KとTは石段のところにいる堀合先生のところに行く。

K「せんせい、リレーするよ」

先生「一等、二等ってするといいわね」という。

T 「せんせい、表彰台つくっておいてね」といってふたりは走って庭に出る。

I が堀合先生のところに来て、

I 「つり輪を高くして」という。

先生「はい、はい」といって先生は庭に出て行く。

九時三十分

⑤は朝から持っていた箱を持って堀合先生のところに行く。

先生「I先生ははって下さるって」という。

⑥はI実習生のところに行く。⑦は実習生のところに行つて、男

児がモーターボートをつくっているのをしばらくみている。

⑧はI実習生に、

⑨「せんせい、色がみちようだい」という。

I実習生は⑩の要求に応じて色紙を出す。

⑪は色がみをうけとりながら、

⑫「せんせい、何してるの?」とI実習生にいう。

I実習生「お舟つくるのを、みてるの」という。

⑬「だったら、⑭の手つだつて」という。

I実習生は⑮をみながらわらう。

SはAといっしょに箱積木で格納庫をつくりはじめる。

⑯、⑰、⑱、㉑が四人で縦に一列に並んでいる。

⑳「年の順にならんで」という。

みんなが誕生日順に並ぶ。

㉑「背の高さ順に並んで」とまた㉒がいう。

みんなでもた並ぶかえる。

並びおわつて遊戯室にかけて行く。

庭

KはTといっしょに再び庭に出てくる。ふたりでマラソンをはじめる。Dがマラソンに加わる。Eが砂遊びをやめてマラソンに加わる。K、T、D、Eは四人でいっしょに走つてマラソンをする。

走っている最中にEとTがぶつかる。

Kがふたりの間に立って、けがをしているかどうかをみる。

K「血が出てないから大丈夫だよ」という。

次にひとりずつ庭を一周走る。

KがTをよびとめる。

T「やめた」という。

KとEがバトンを持って、

「やりなげだ」といいながら、バトンをなげなげ、保育室に入る。

(つつく)

(お茶の水女子大学)